

地域新聞 みあき 創刊号

地域新聞みあき製作委員会
2016年10月1日 発行
連絡先 info.miaki@gmail.com



稲垣 区長

「地域新聞 みあき」創刊にあたって
(文責) 稲垣 信雄

こんにちは、区長の稲垣です。この度、三秋地区の若手有志らの提案により、「地域新聞 みあき」を発刊することになりました。本紙では、先人の歩んだ道や現在の生活の様子、未来への希望等、三秋に関する様々な情報を老若男女に分かりやすくお伝えしていきます。

そして、いつしか地域の皆様に愛され、親しみのある新聞に成長してくればと思っております。その為にも是非、皆様からのご意見ご要望は勿論のこと、どんな些細な情報でも構いませんので新聞を通じて提案して頂ければと思います。出来ることは逐次実行していきます。

遠距離旅行をするチョウがいることを皆さんご存知だろうか。そのチョウがあの大池に飛来してきているという。延べにして10000キロ以上を大移動するというこのチョウの名はアサギマダラ。

2015年1月11日、NHKの番組『ダーウィンが来た！』で「日本縦断2



大池で撮影されたアサギマダラ

き、皆様が元気で暮らしやすい三秋を築いて行きたいと考えております。三秋の皆様、ご愛読を宜しくお願い申し上げます。

旅するチョウ三秋の大池で発見か？
(文責) 原田 浩明



大池で撮影されたフジバカマ

「アサギマダラ」ってどんなチョウ？
アサギマダラ(学名: Parantica sita)は、タテハチョウ科のチョウで大きさはアゲハチョウほどの大きさ。重さは0.5グラムにも満たないほどの軽さで、普通通にふわふわと飛んでいるだけに見えるが、何と春と秋には10000~20000kmもの旅をするという。大池では、フジバカマ(キク科の植物)に集まってくるようなので、花が開花する10月11月下旬頃



現在のコミュニティ広場

「謎の蝶アサギマダラはなぜ海を渡るのか？」 栗田 昌裕 (著) あり

土手辺りで見られるかも。。。

みんな考えてよ
(文責) 原田 夏子

神社のとなりにある「ミニニエ」広場は写真の通り、現状、全く利用されていません。これからは、三秋の活性化に利用出来ればと考えておりますので、皆さんからのご意見をお待ちしております。



去る8月6日、北山崎小学校にて恒例の盆踊り大会が行われました。みんなうまく踊れたかな。



去る9月4日、伊予市民体育館にて、第20回北山潮風運動会が行われました。皆さん、元気いっぱい、笑顔いっぱいですね。

和尚の小部屋

(文責) 西願寺 玉井敬信

「小さな何か」

梅雨のある日のこと、三秋の『地元新聞の発刊』と、そのトピックの一つである三秋の里側からの『明神山登山』について「和尚はどう思う？」と聞かれた時、私は「大賛成です！」と即座に答え、明神山登山隊への参加も即決した。地域活性化については、少子高齢化を迎えつつある日本各地での成功例やアイデア等の話題には事欠かなくなった今日であるが、我が地域からそれらの議論が漏れ聞いてくる事はなかったように思う。地域の未来を語るべき若い世代が少ない影響も大きいと思うが、だからこそ、このような状況の中で、地域の老若男女が楽しめるような「小さな何か」を始めてみることに意義を頼もしく感じる。そもそも、我が地域では何が出来るのだろうか？たくさんの小さな対話なくして、大きな方向性には発展しない。願わくは、関わる人々が多に楽しみつつ進めて頂きたい。人は楽しい物事にこそ集まって来るのだから！

主な行事予定

- 平成28年
10月
9日(日) 秋祭り
14日(金) 地区別人権同和教育懇談会 19:00~ 三秋集会所
20日(木) 中村地区ふれあいの集い「敬老の家」 中村地区公民館
- 11月
6日(日) 三秋大池防災避難訓練 7:00~ 三秋大池 中村地区防災避難訓練 9:00~ 北山崎小学校
- 平成29年
1月
15日(日) 寄費納入 三秋集会所
- 3月
12日(日) 平成28年度通常総会 14:00~ 三秋集会所

編集後記

地域新聞みあき製作委員会編集委員の原田です。7月より有志の方たちと準備を進め、本日待望の第1号を発行することができました。“地域新聞”という名のとおり、三秋に密着した話題をお届けし、三秋の情報発信基地として皆様に貢献出来ればと思っております。老若男女出来るだけ多くの方に読んでもらいたいと思っておりますので、どんな些細なことでもかまいません、ご意見・ご感想を是非お聞かせください。地域新聞みあき製作委員会のメールアドレス (info.miaki@gmail.com) もしくは、この新聞を皆さんのお手元へお届けしているお近くの組長さんにお伝えください。今後は年4回位のペースで発行していく予定ですので、宜しくお願い致します。

「滝の水に感謝」

(文責) 吉岡 満

明神山の一角に懇々と流れる滝があります。通称「黒岩の滝」。この滝の水は、荒谷川を流れ流れて、森川へと合流します。実は、この滝、先の松山自動車道明神トンネル工事の際に、地形変化により突如として、出水したものです。この滝の水は、三秋地区の水田の稲作に活用され、夏場の水不足時には、果樹園へのかん水や、野菜畑の補水等に大活躍しています。また、荒谷川にきれいな水が流れることで、川魚やカニが見られ、初夏にはホタルが飛び交う光景がとて



三秋上組にある通称「黒岩の滝」



滝をバックに吉岡さんと取材員

も素晴らしい。この滝の水がなかったら、水稲作付けも野菜栽培もやっけないだろう。これから的人生に夢と希望を与えてくれた「滝の水」に感謝の気持ちでいっぱいです。

私の絶景



サンヨーハブラシの上に観光列車「伊予灘ものがたり」発見!! 模型みたいでカワイイですね。みんなもいろんな角度から「伊予灘ものがたり」を撮ってみよう。

おもいで

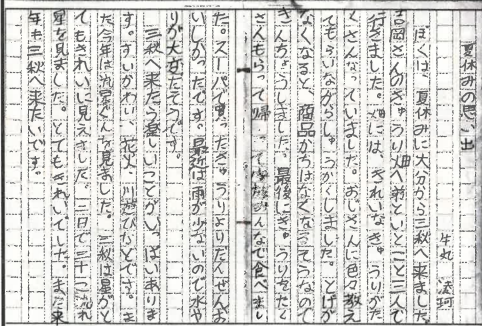
三秋のいいところ
しおぎき ころた
ばくは、埼玉県川口市から来た、小学三年生です。夏休みに、お母さんとおばあちゃん、キョウリの吉岡おじちゃん、おばあちゃんの家にお邪魔しました。
朝早く起きて、キュウリとりをして、大さきな、キュウリを、丸かじりしました。二日間で、八本食ました。そのほかは、キュウリのふくらみずめや、シールはりをして、お土産のたねにならばるすつたいをしました。
早おきは、すく女へんだ、たけど、キュウリもが楽しくてい、ばいと切りました。
三秋は、山や川がい、ばいあるけど、ばくのすんでいる所は、山や川がないので、三秋に来るときは、いけしきがみれてすごい
また来年の夏休みも遊ばたいです。



吉岡峰子さんの甥御さん(塩崎康太くん)



西村幸子さんのお孫さん(牛丸凌珂くん)



新しい朝が来た

(文責) 高井 健一

夏休み、朝6時半から消防詰所前でラジオ体操が行われました。三秋の小学生と愛護班の担当で夏休み期間中の15日間行われました。朝から元気な子供たちを見ると、元気がもたえそうです。



消防詰所にて

三秋の新たな住人?

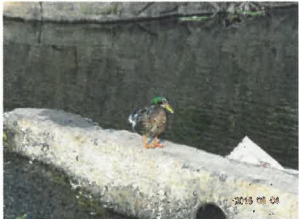
(文責) 稲多 早生由

みなさん、三秋に鴨が住んでいるをご存知ですか? 森川に注ぐ三秋の川に二羽の鴨がいます。八時、十六時ごろのお食事タイムに下三秋の川に現れます。



下三秋川沿いの田んぼ

夏の奉仕活動の日、山陽園ブラシ工場付近の道を歩いている二羽の鴨を偶然見ました。子供たちに見つけました。子どもたちに取り囲まれた鴨は、目を白黒させていたそうです。みなさんも、愛らしい鴨に会えるかも?



下三秋の川にて

いてませんか?

(文責) 中藤 真里

三秋端にて発見!! 突然この虫が目の前に現れてビックリ!!
実は、このラミーカミキリは、体長10〜20ミリほどの小型のカミキリムシの一種。インドシナ半島、



ラミーカミキリ



80年代一世を風靡したキョンシー

中国・台湾からの外来種で、西日本の各地で見られるそうです。

キョンシー以外にも「ガイコツ」「ベストを着たロボット」「タキシードを着たガチャピン」など色々例えられてきたようです。あなたはどんな模様に見えますか?

ジャックと豆知識

(文責) 藤岡 隆司

ちょっと知りたい三秋地区

三秋という地名は、「屯倉」(みやげ)という言葉から来たものと考えられています。この「屯倉」(みやげ)というのは、その昔、朝廷が納めていたところで、米倉なども作られていました。また、古墳なども多く、古くから栄えていました。



えっ?三秋にお城が...

昔、三秋・中村・大平の境にお城がありました。このお城は、最初ピックという人によって建てられたのでピック城と呼ばれていました。このピックには子供がいないので、一代で終わってしまいました。それで、次に代山城(だいさんじょう)と名前が変わり、その後、尼が城(あまがじょう)と名前が変わりました。しかし、この城は土佐の長宗我部(ちようそかべ)の軍勢に取められ、討ち滅ばされてなくなりました。

(郷土読本 ふるさと北山崎より)

次回回は、三秋昔話でも開いてみます。ご期待下さい。